

門 4
號 3652
1

撰者 曉鐘成編輯

全 招川半山畫圖

全 浦川公佐画圖

西國卅三所名所圖會 初編 全卷

嘉永 新鑄 書賈合梓

廣内 普弘



西國

西國三十三所靈場の尊ぶるの
さしあかりを以て古き代より人の
免れぬよし有りかたなるを
華山法皇の御修行とて行幸し
たへるかにわく西に始り終り此

はらうも定むりよなむかひればま
あるとす。く瑞く九名を山川に
風来をいもやよりのあはれり神の社
いふ一人の伝歌抱のくやし奉て
兼へうの起き浪華の曉鐘成めり

はらうも定むりよなむかひればま
あるとす。く瑞く九名を山川に
風来をいもやよりのあはれり神の社
いふ一人の伝歌抱のくやし奉て
兼へうの起き浪華の曉鐘成めり

河に流されと吾は花山元慶を
むう法皇此夜お柱母ん飾り
おろしあひなまのちを田よもいかに
あゝおまの書ありしれをくおか
其大際とえいひある抑大悲千流

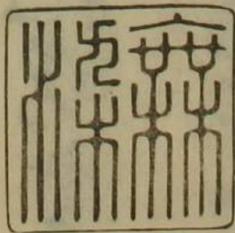
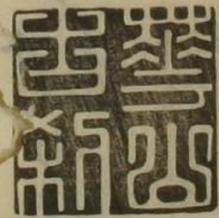
西ノ序三

御誓ふる枯る樹も花咲き
笑は合様木のちの法に数れ巻も
あゝいまの御代の書ありあひり
みのりれ芽おも書いみの時と得い
とやふら海いも

嘉永元年戊申二月

花山法皇御落飾道場花頂山元慶寺

苾芻無染



西ノ序三

西國圖會自叙



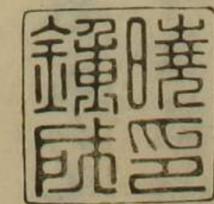
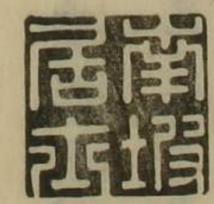
く経行の母々々西國順禮と辨く二十餘三つと
以觀世音おさらけ靈場を行めりてとて
其往古いとも人も何やあつてとて

花山法皇此大御身おつてのつとて何とてあつてとて此
東より西までつとてつとてつとてつとて大御法を
慕ふをりて諸つとて人とも稀くとも有つとも永亨
とつとて年おつてを起つとてつとてつとてつとてつとて
國中も是つとつとつとつとつとつとつとつとつとつと

大御代の恩頼をねがひ記す... 何れも書肆に進るより形舟に... ちくや... 採りて... 年

嘉永... 年の春

鶏鳴舎曉鐘成誌



凡例

一 此書、西國三十三所名勝... 便宜地の神社佛閣... 紀伊國名所圖會... 世に西國順禮と稱する... 讀で余... 遺るを拾ひ奇談珍説... 一 寺社の莊觀興廢... 則河内大黒寺光龍寺土師八島墳の如くあれ也

一 其遺跡の絶つても教訓とあふらば奉り加ふ大和乃孝婦伊麻の如きも也
 又世に出る事年歴僅あつても古物の類に寫し出れば文氏墓誌銅器あは是なり
 卷中間々忘説の如しと文ゆ事本意よりべしとも唯其西國の異容なりと
 出しく児童の目と慰んが為あり

攝都 曉 鐘成謹誌

西國三十三所名所圖會卷之壹目錄

花山法皇御幸順禮之權輿

靈場順拜總圖 自伊勢兩宮熊野三山及歷和泉河内至大和

伊勢國

國號之譯 兩宮參詣道條

自京都本街道自東武東街道自浪華田丸越阿保山越伊賀越亦凡行程里數

山田郷 參詣道條

豐川 宮中神社諸殿

勅使上使本道 度會宮正殿 外宮

豐宮崎 宮崎文庫 屋上檼

高倉山 高天神社 高天神社 容神社

伊加利社 井谷池

度會大國玉比賣神社

御田 井足山

梶が森 錦河内

田上大水社 宮崎氏社

山未社 麻留山

世義寺

鼓が岳 蓮臺寺

寶金剛院 小田橋 河辺里妙見町

瀧浪山 岡本里

繼橋

岡寄宮
 尾上山
 清雲院
 貝吹山
 月讀伊弉諾兩宮舊地
 月讀森
 大土御祖社
 伊勢上人 慶光院
 真淨院
 大水社
 橋姫社
 内宮正殿
 狹田國生神社
 尾部社
 常明寺
 經ヶ峯
 中地蔵
 伊弉諾伊弉冊宮
 岡田
 法衆舎
 鼓ヶ岳
 宇治橋
 宮中神社諸殿
 速川比古神社
 隱山
 葛籠石
 間ノ山 於杉於玉
 菩提山
 興玉森 橋ヶ淵
 牛谷
 那自賣社
 不動堂
 長明寺
 五十鈴川
 二見の浦
 湯田神社
 隱の池
 古市
 王孫池
 皇女森
 尾寄里
 浦田 中之切
 神照寺
 津長社
 林寄文庫
 館町 神庫
 柳の渡
 田丸城下

田上大水神社
 田宮寺
 栴羅神社
 相鹿木太御神社
 多岐原神社
 國號之譯
 長嶋浦
 鋸坂
 馬瀬川
 間越坂
 松本古趾
 三木浦
 紀伊國
 熊野の號の譯
 錦浦
 道瀬浦
 木戸口川
 岩船地藏堂
 中川 矢根川
 曾根浦
 坂手國生神社
 蚊野の松原
 國東寺
 千福寺
 瀧原宮
 一石嶺
 二浦嶺
 中里川
 天狗石 天狗窟
 八鬼山嶺
 浦母嶺
 廣泰寺
 津布良神社
 相鹿上神社
 三瀬川
 荷坂嶺
 二郷の渡
 海野浦
 始神坂
 便山川
 光林寺
 日輪寺 重五郎茶屋
 楯ヶ崎

二木島浦
 相神坂
 清茶寺
 鬼ヶ城
 七里濱
 王子窟
 産田神社
 淡川
 熊野川
 鐘樓
 如法堂
 東仙寺
 泰徐福墳
 最明寺
 徳司明神社
 木本嶺
 魔見ヶ嶋
 阿呼石
 有馬浦
 安樂寺
 水傳磯
 熊野新宮
 新山御旅所
 新宮城
 無量壽寺
 飛鳥神社
 英廬子明神社
 大吹嶺
 清水寺觀音遙拜堂
 木本湊
 大馬權現社
 玄持三蔵祠
 東安寺
 梶ヶ鼻王子
 御船島
 新宮湊
 宗應禪寺
 宮戸神社
 牟婁子明神社
 清水寺
 井土川
 花之窟
 聖徳太子祠
 志原川
 耳切川
 牛鼻神社
 矢倉明神社
 燈明寺
 行家館古趾

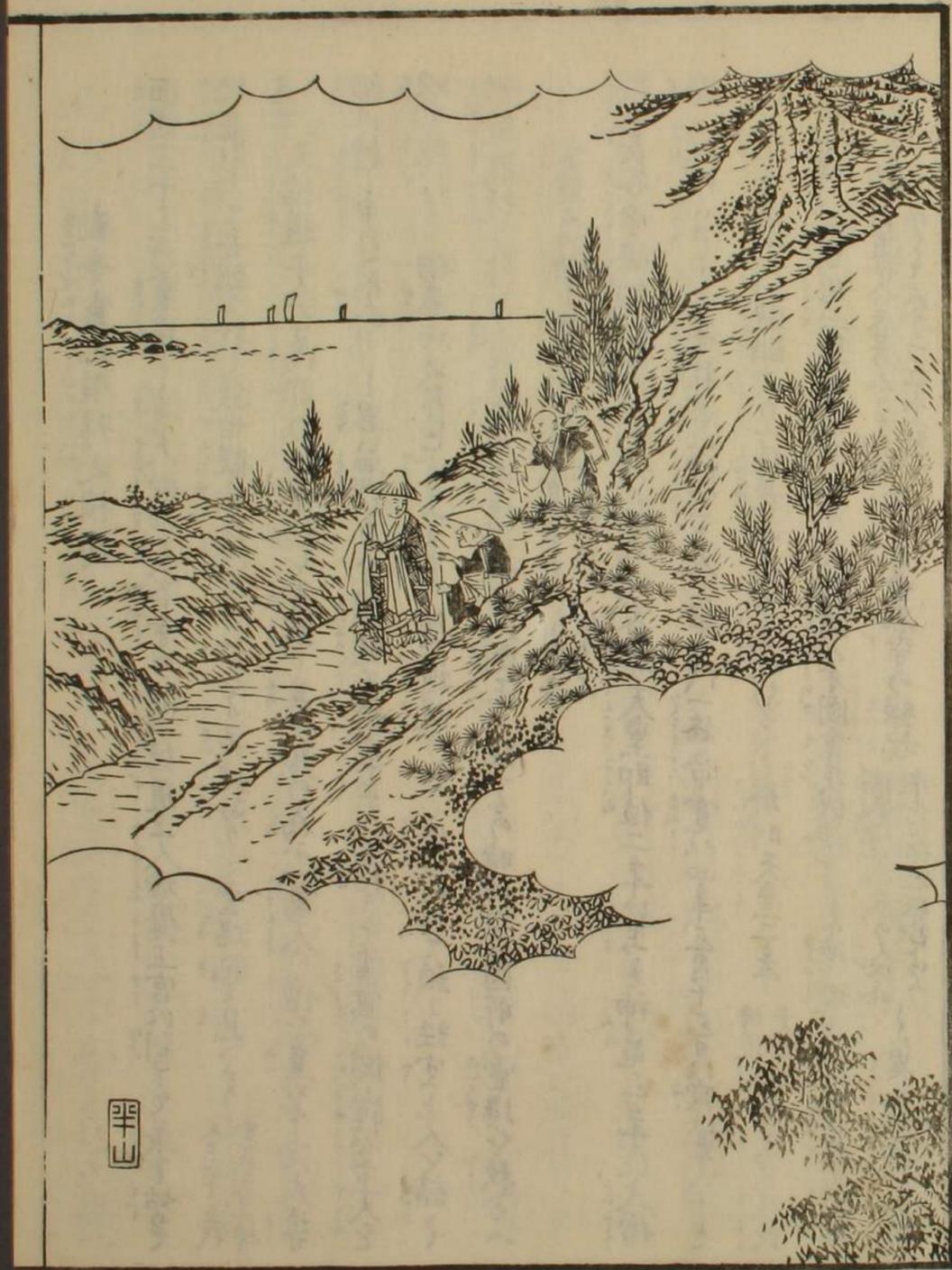
濱王子社
 妙心寺
 熊野村比丘
 佐野岡
 高根島
 小園坂
 丹敷浦
 補陀洛寺
 玉之井橋
 三熊野
 御手洗坂
 佐野山
 佐野王子祠
 目覚山
 鳴耶濱
 維盛郷入水古跡
 神倉山
 三熊野浦
 上野明神社
 佐野松原
 王子橋
 太夫松
 白菊濱
 濱宮
 大黒堂
 三熊野濱
 三輪ヶ崎
 秋津浦
 二位禪尼塔
 孤島
 赤色濱
 渚森

大悲何所導濟度彼西方千手經營壯三十三靈場
 華山幸熊山跋涉創法皇普陀落化城輪奐幾紺堂
 奇秀山不騫汪洋海無量名區入國雅勝迹又詩章
 香火善男女描寫禮巡裝不異五岳真當占四時芳
 燦然萬流峙一覽在縹緗因緣引騷客何啻喜爺孃
 尚平願宜滿康樂意飛揚誰將煙霞癖裁此巧津梁

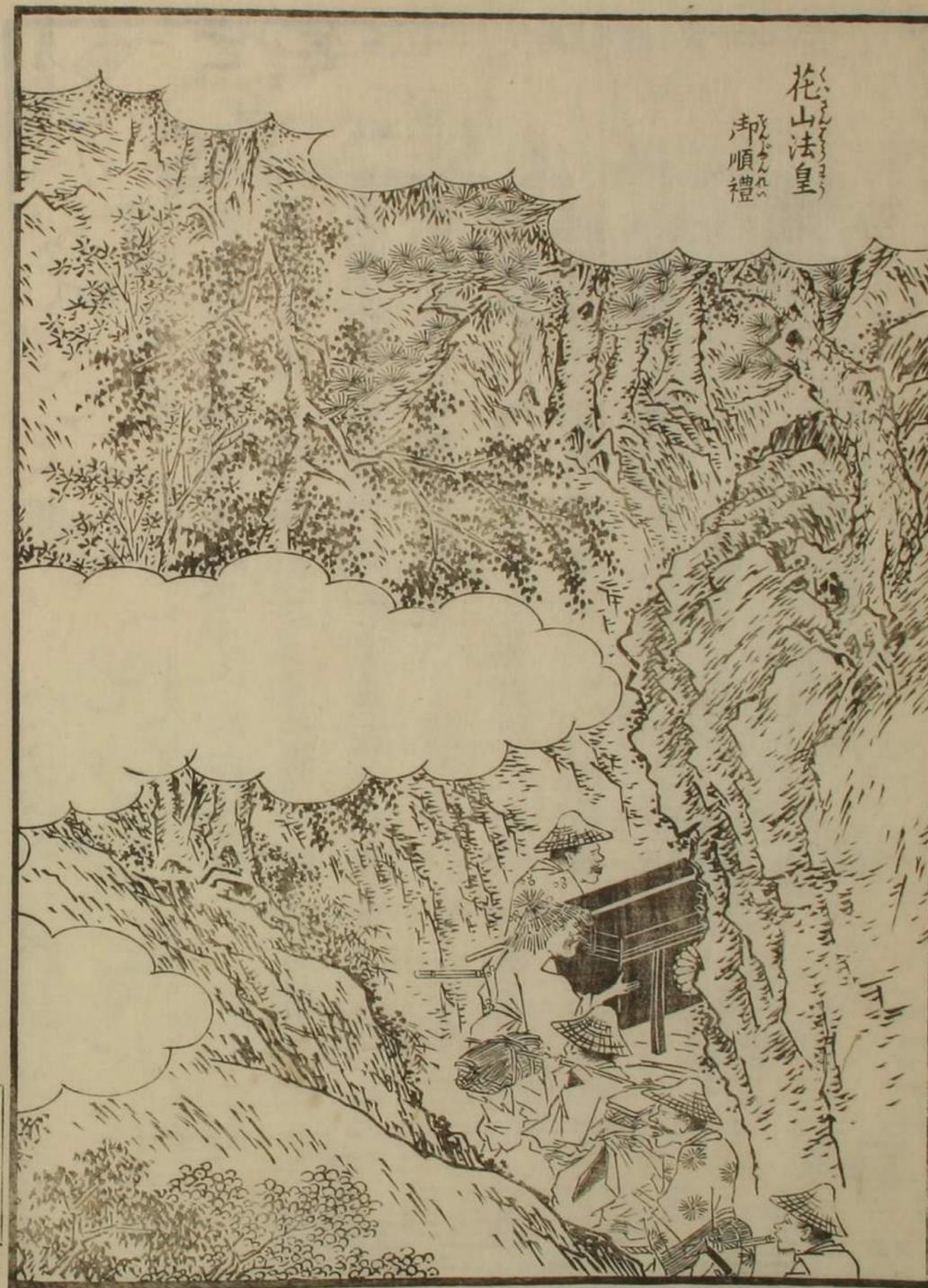
嘉永二年己酉秋九月

南浦 山口之謙題





平山



花山法皇
御順禮

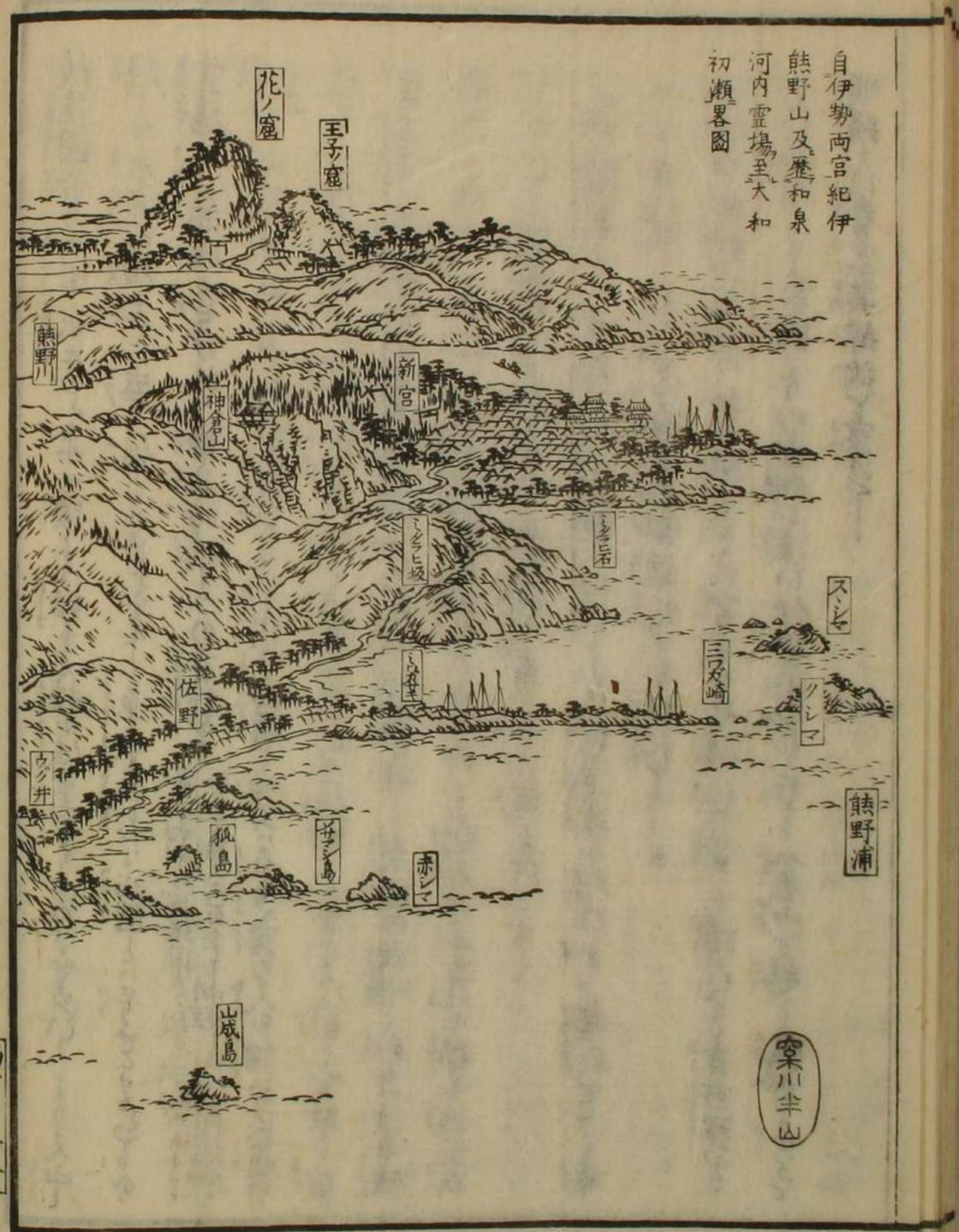
西一七

年八月讓と受て六十五代の帝位に即せり其初関白頼忠の娘且為平親王の女藤原朝光の媛と納て女御と成時つづかれ此二女相共帝顧みり事あり時大納言為光の娘恒子が容貌麗美ありと聞せぬ是と納て女御と成然る帝寵遇甚と渥く乃ち弘徽殿に置りぬい之不幸せし事二十人の粉黛顔色あなが如故一呼で弘徽殿の麗女御と曰るも因て前の二女の女御達是と妬みゆひる故に幾程も恒子懷妊して八月及び寛和元年六月病にかりて薨りぬ是より帝御嘆きの余り朝政も聞せぬ物狂しかりぬ悲に況む世に捨る御志あり又帝又冷泉帝も是に似させぬ御病ありて猶つづ愈させぬは今日天皇も又余ありて群臣志よくあれと凍むるも只發心の御志して打露き御座るに粟田関白道兼其頃つづ殿上人を藏人弁と申しらるが扇に大集經の妻子珍室及王位臨命終時不隨者といふ文と書て見せ奉り御出家とす自ら我身も御供して剃髪しすべしと賺し申さまけま御道世の御志弥増て終に寛和二年六月廿二日の夜潜り貞觀殿の高妻戸より忍び出させぬ御供は沙門嚴久と藏人藤原道兼と只二個あり又中納言藤原

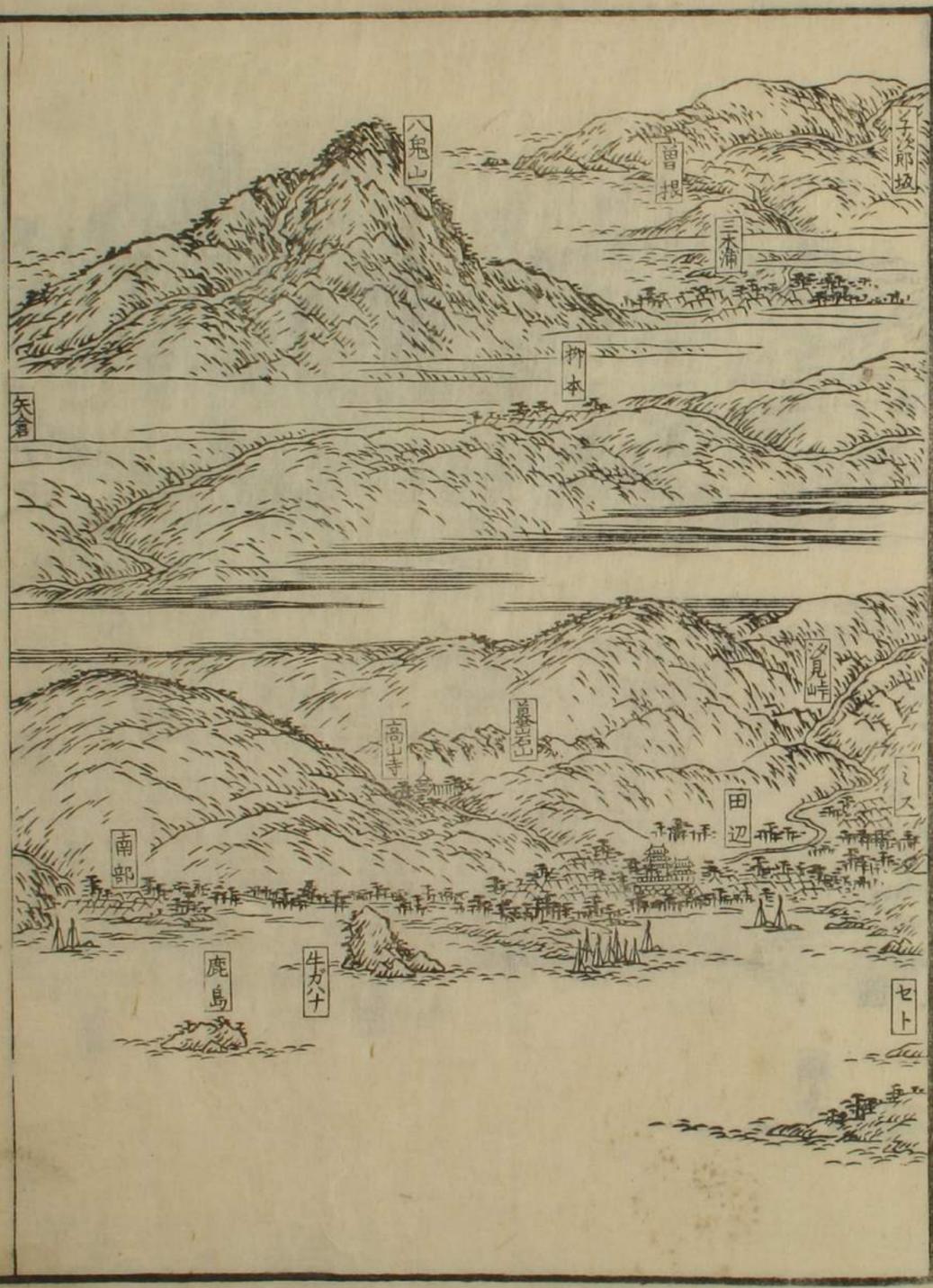
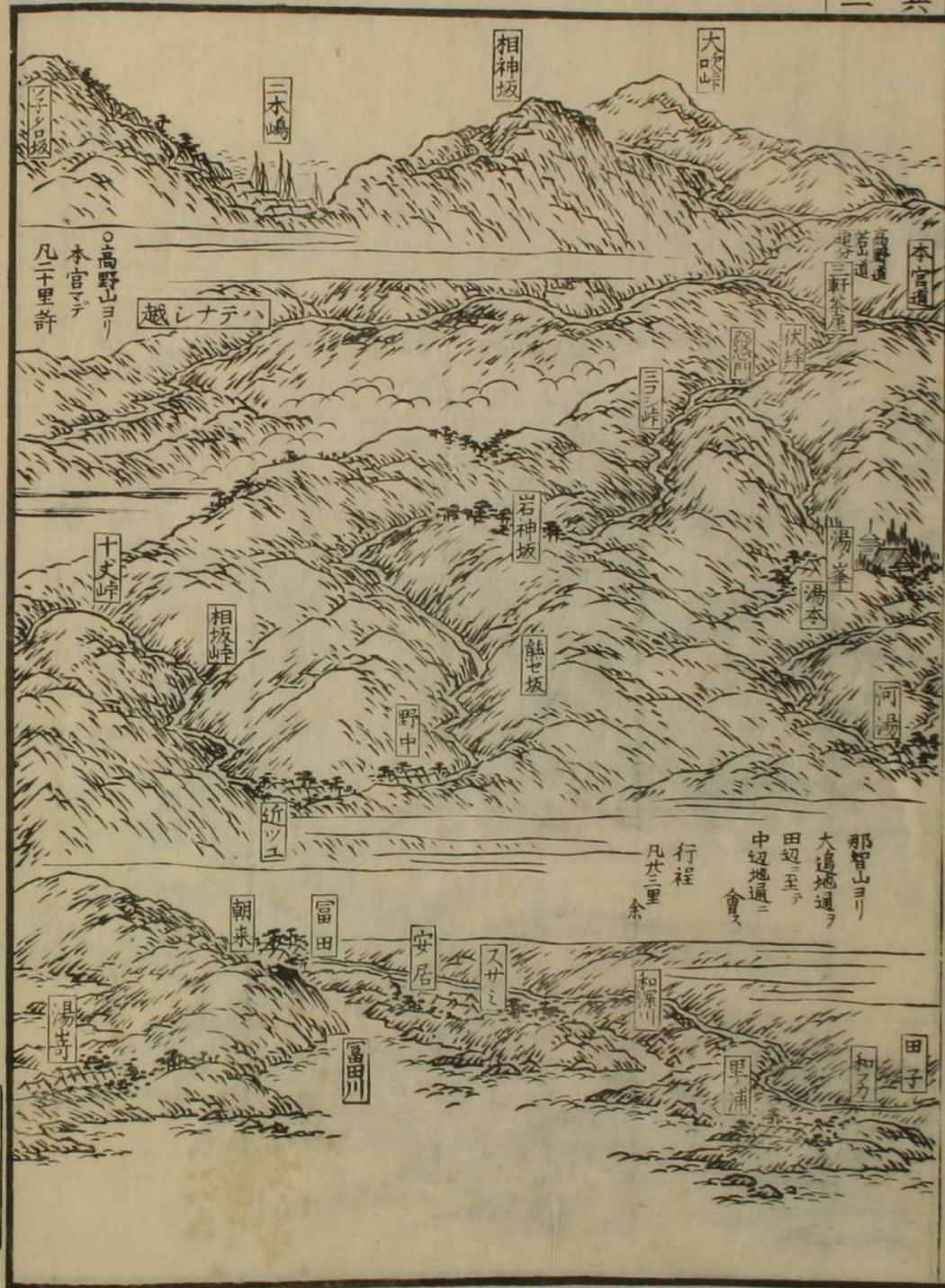
義懷と左中弁藤原惟成此二個御跡と慕て隨逐に即ち花山の元慶寺に御飾と落しぬい御名と入覚と号し花山法皇は是あり御年十九人曾て是と知りぬ其夜天文博士安部晴明何心もあて庭へ出て仰ぎ見て驚き曰天象異と呈す天子位と避るの象ありと斯て晴明急参内して奏するに帝在るに百官駭騒して尋ねども見させぬは明日に至つて帝の在る所と索り得るに則ち花山寺に就僧とありぬはるゝ維有て駭るるは御就中義懷と惟成と常近臣ありぬは同日剃髪し従ひ奉らるる斯て法皇戒檢嚴しと花月と號む道造の友と求り給ふべた浄楽の友とのも慕ひ招きぬはるゝ河内国石河郡聖德太子の廟所に勅使成立させぬは何事ともかく聖一個忽然と来りて御りり勅使されと見るに眼より金色の光を放ちぬ人々より是と凡んあはれとて伴ひ都下より法皇に斯と奏し奉るは法皇もあれと見ぬは眼より金色の光りよりは則ち号け佛眼上人と宣育とあり下されぬは戒師の御房と尊みぬは余後法皇は普く觀音の靈場と拜せんぬは成望みせぬは佛眼上人先達とて日本におて救世觀音の浄土といふ靈地

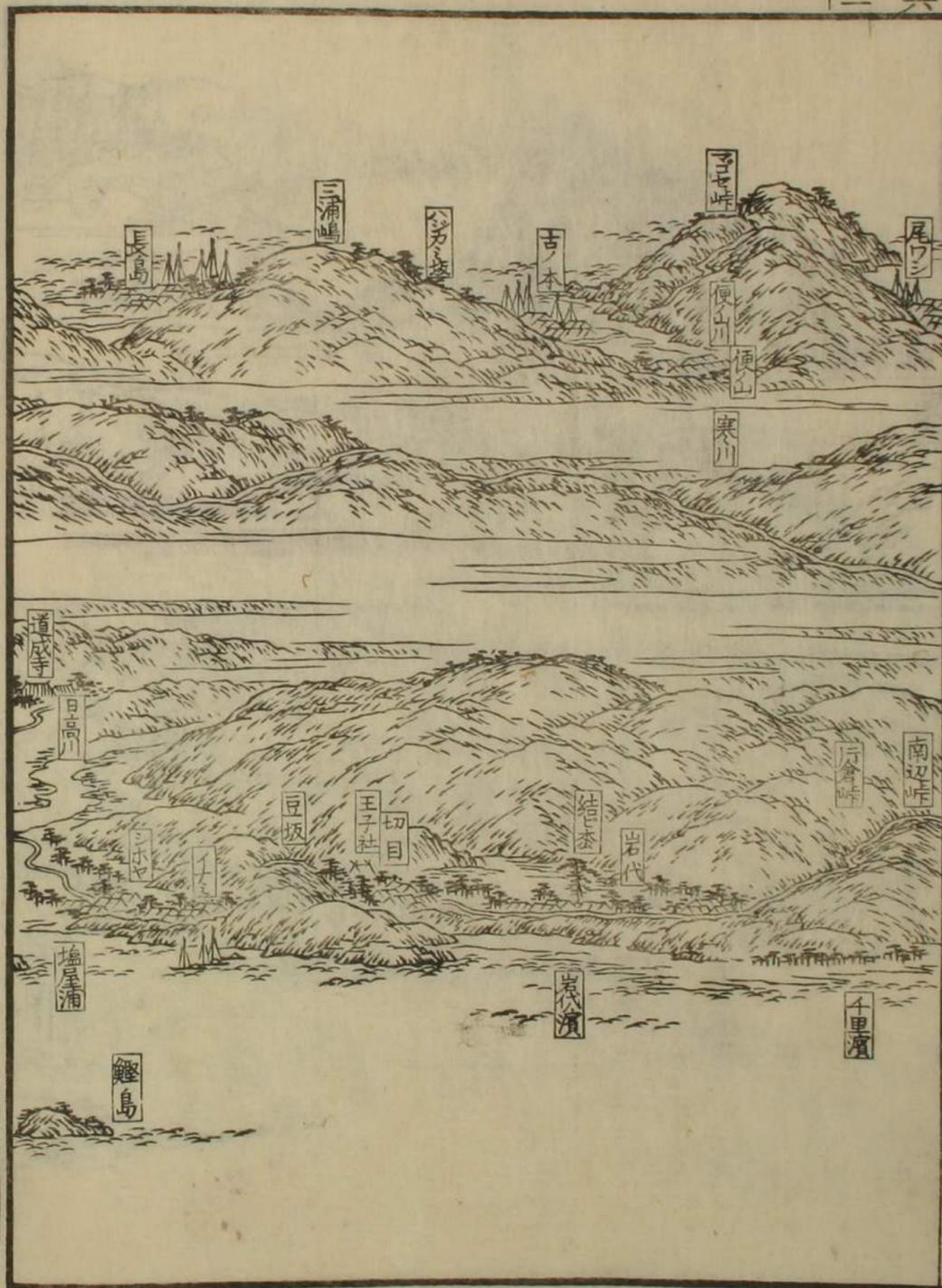
二十ニヶ所と導と奉らるるごと 中山寺合縁起ハ花山法皇長谷寺に宿て冥夢（か）を
うり此上人のすうり依て 靈驗真鈔曰永延二年戊子二月十五日法皇華洛と出陣す（り）
佛眼上人と先達とて二十ニヶ所の観音の順礼と修行ゆひ六月朔日まで七十五
日と経て還陣し給ふ （霊場記曰花山法皇冥夢と感下のひて長徳元年二月十七日夢熊野
至りのい同六月朔日谷汲み来りり其間七十五日也是と諸人巡礼の始と
法皇其後又重て那智山へ入らせのひ二年が同練行のひ入して華洛と還らせ
のひても花山寺に在りて自ら密乗と開とひりれ灌頂と受る者其數尚も
多かり寛弘五年二月八日崩せり聖壽四十一とて御座る 敕書 されば弘徽殿の
女御とつるも救世観音の變化して假人間とあられり煩悩即菩提心の利益
とあり花山帝と佛乘に皈せり又佛眼上人と現れて靈場とせし閑せり人皆
是衆生済度の方便ありされ斯る靈場と一回とも歩くと運ぶ輩ハ現世とて惡事
災難と免き子孫繁昌し厄病厄難とのれ一切の業障と除き死とて惡道と墮
する事と逃るると疑ひ有ぐべしと
一書云二十ニヶ所の推輿ハ忝くも花山法皇の巡り始りてうて茂で都内より百二代

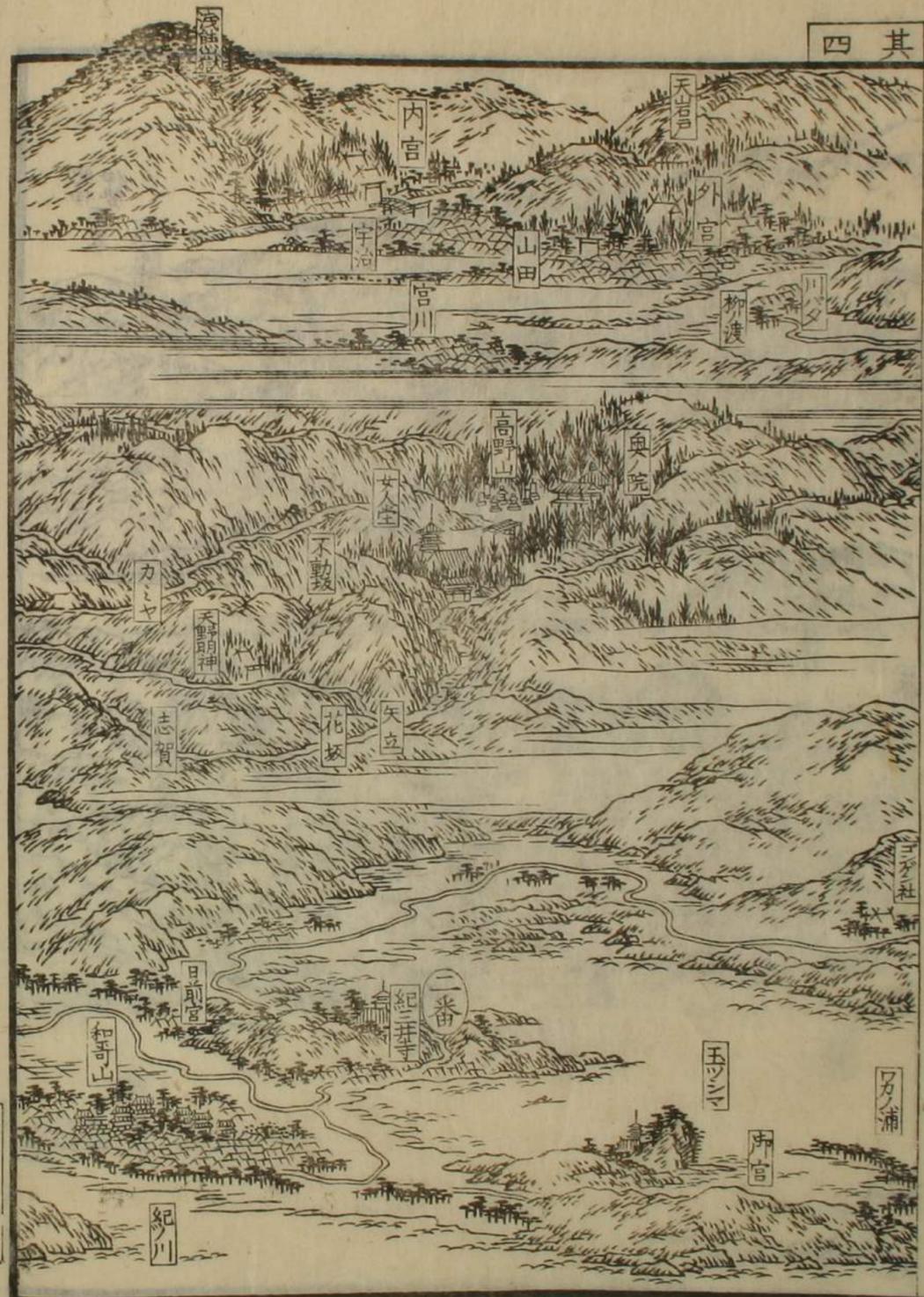
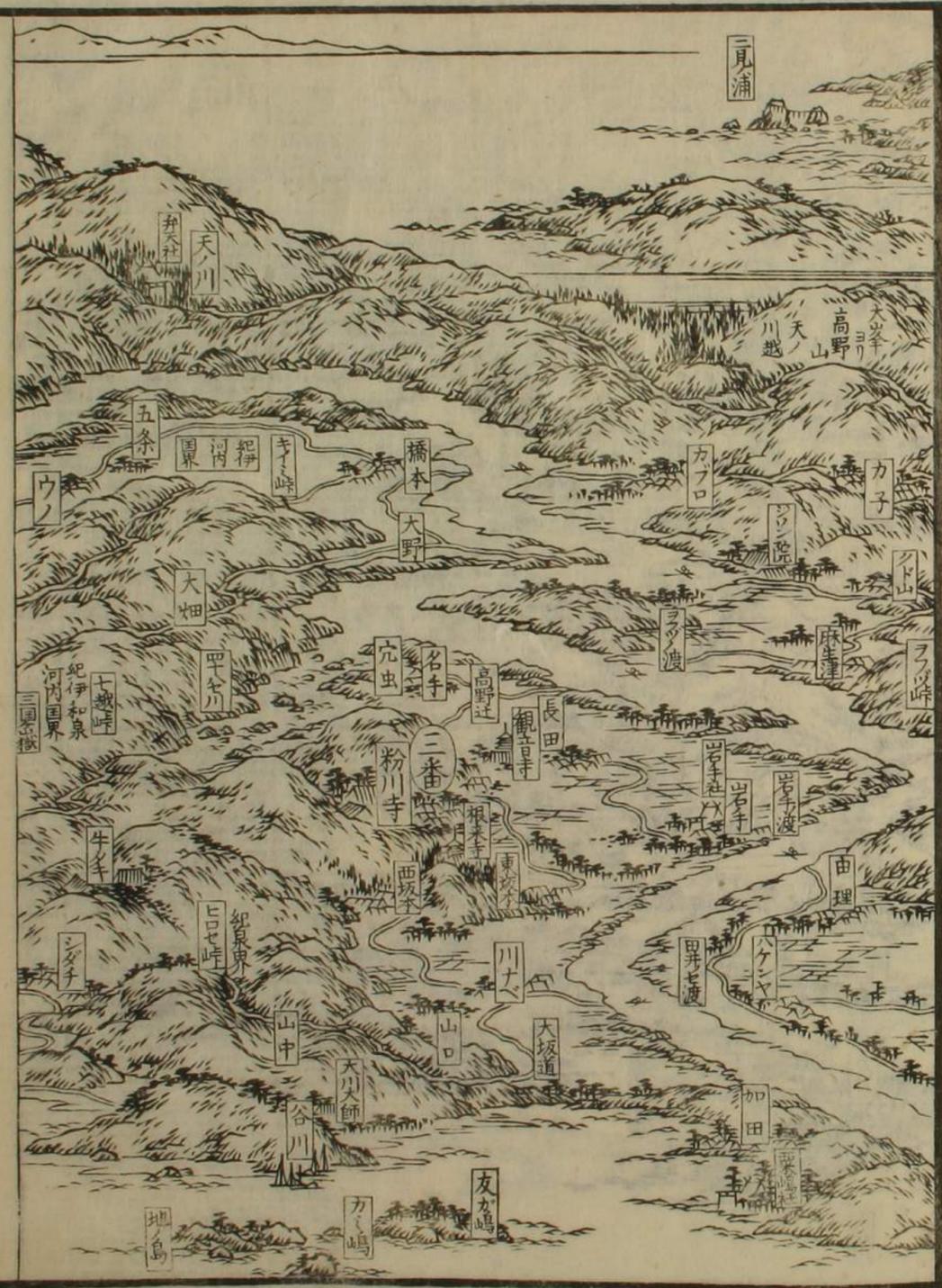
後花園帝の御宇永亨二年の頃より始ると按法法皇のそとめさせのひより又中
絶して永亨の頃まで盛ん巡らざりあり原来其名も西國とハ号せざるあり今
靈場記云西國と号けたる鎌倉時代より言始り （或云永亨の後諸国大い説き事蹟のありて
ありて諸人又百余年中絶し御治世以後漸く
盛ん巡らざり 閑田次筆云二十ニヶ所と巡拜するは現今西國と呼ぶ原東國の人の詞あり道の
法ので東海道とのり 伊勢両宮に詣り八鬼山とて熊野に至るより國と経る近
江の長命寺観音寺羨濃の谷汲し終ると中仙道と経る東國の故郷と皈るハ次第順
路ありされ其二番紀二井寺の歌と故郷とをめぐりて紀二井寺花の都も近く成
らんといふ關東の人ふあひて中原の地の人の為ハ聞えはト云
一説に關東とて老若と拘は既と巡礼する者と上座小列の未と順礼せざる者
と下座に居りむと言は故と都鄙遠近と巡礼せりト云
抑伊勢熊野ハ天地の神の鎮るも宮居られ順礼の輩も詣りて事所理あり
されハ此考も東國との古例に准ひ伊勢両宮と始り八鬼山と越り熊野に至ると
順路といふ看客其縁故と察しべし

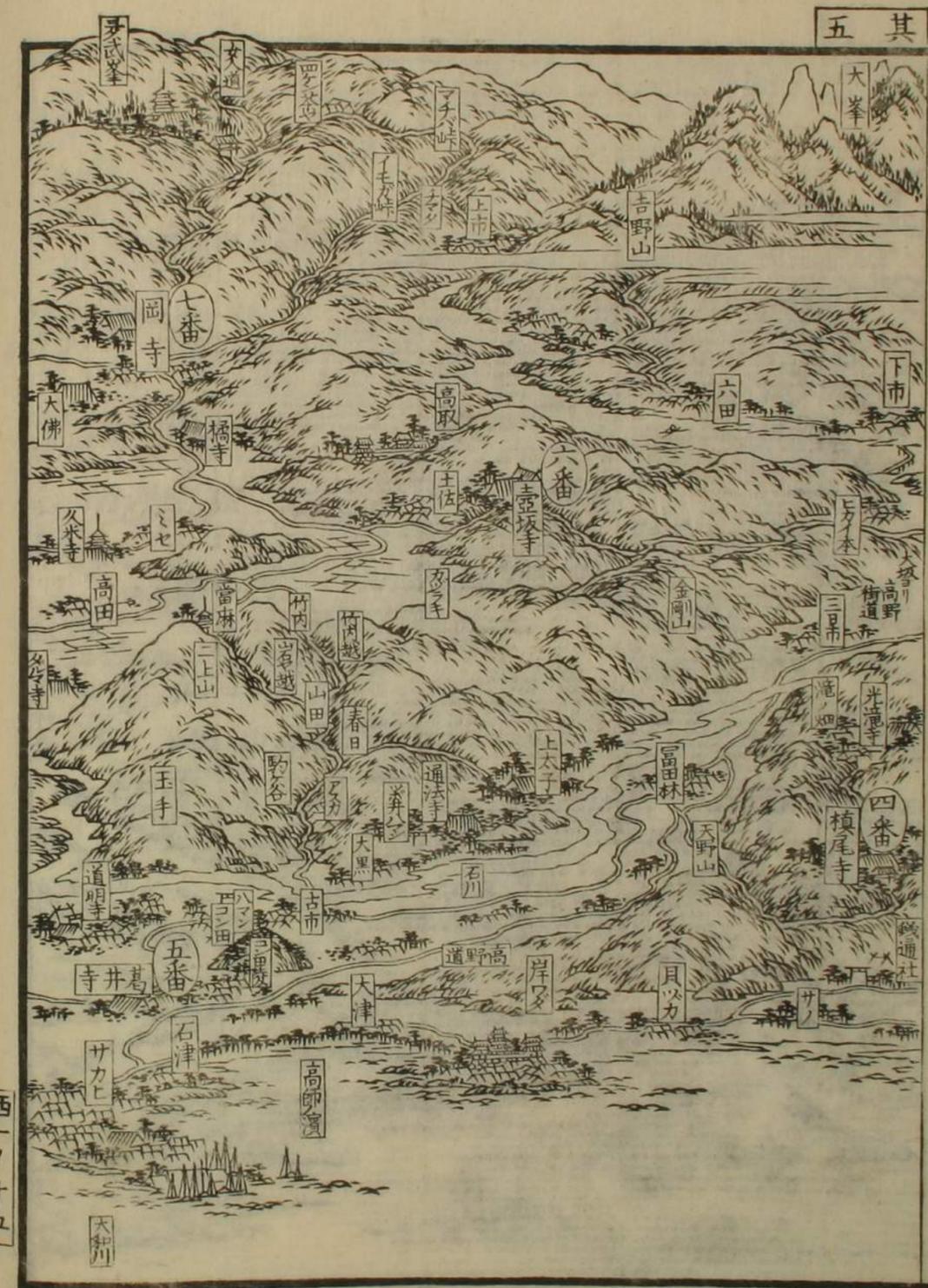
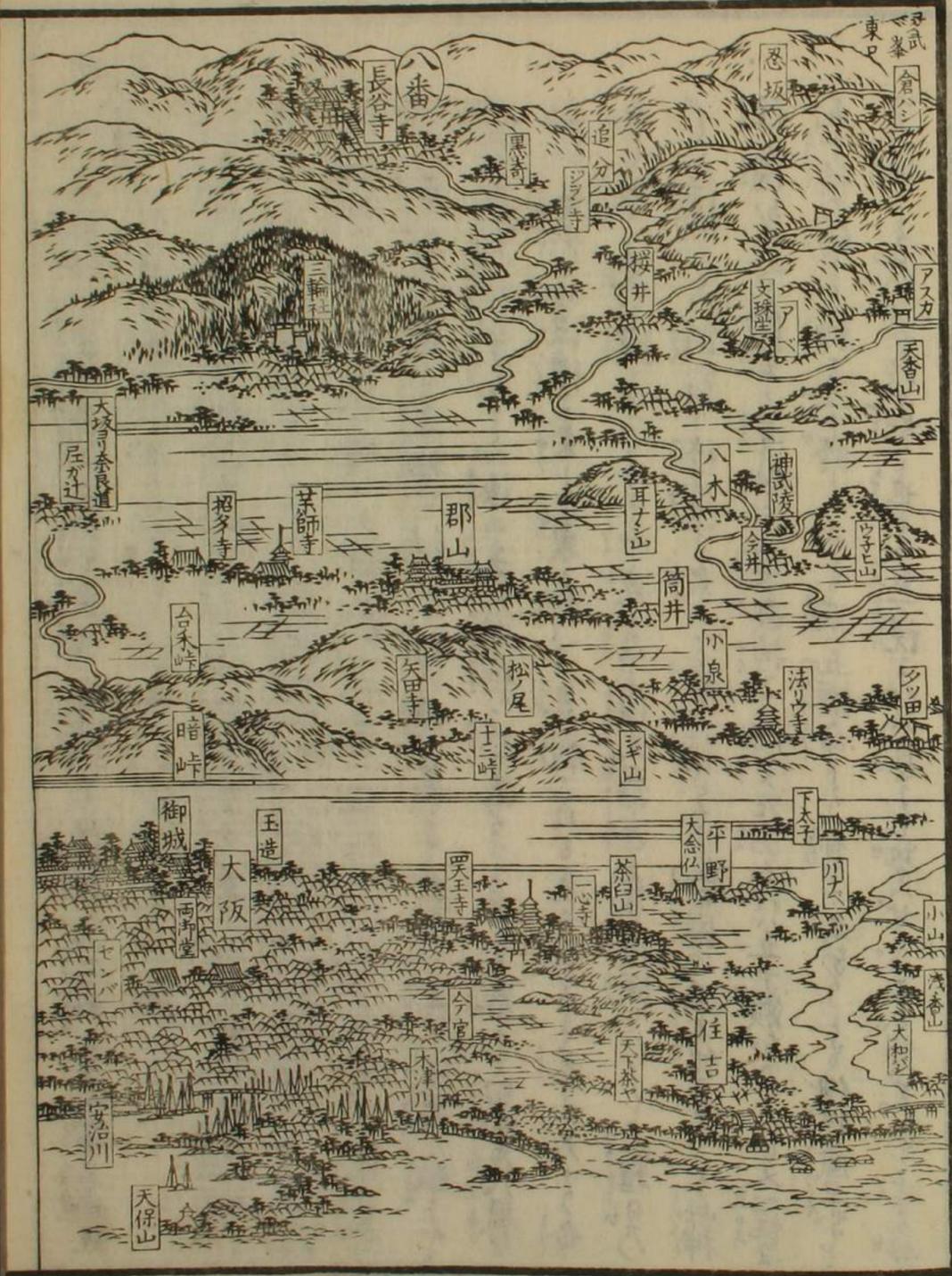


自伊勢而官紀伊
熊野山及歷和泉
河内靈場至大和
初瀬畧圖









其五

西一八十五

伊勢

伊勢國大管十五郡して地勢東南に海濱にけ西北に山岳列する國中平均に
と余洲小勝を土厚く貢奉り一時時々百戦得る大に上國あり

抑當國八神武天皇東征の時天日別命勅と奉りて東に入事數百里其所小
神あり名を伊勢津彦とす 伊勢津彦八咫姫命世紀に出雲神の子建子命 天日別
一名伊勢津彦神一名櫛玉命と見ゆ
命彼神に對ひて曰汝が國と天孫に敵るや吾て曰我此國に任る久しと大不
惜む命を幾と其神を討んと欲し時を畏る我國を悉く天孫に敵るん
啓りん天日別命去る汝のまん時何て以て去るせん又啓て曰今夜八風と
おほし海水と吹波浪に乗じて東へ行て是我される去るあつて吾夫も命
兵を整て是を窺ふて中夜に及ぶ頃大風四方を發り波瀾をたつ光耀日乃
く海陸ともに朗あり終に浪に乗じて東へ行するは當國の風土紀に見る此神
住國あるを伊勢と号しと奥義抄に川多國を五十瀬ありといふ又一説は
五十鈴の約り轉て五十鈴とす或五瀬命より負り名ありとも伊勢風早かど
つ六風なる波のつせれが如き也とも一説は伊息と勢とせむとせむとせむと
言ふ

そそ凡く物の勢ひは言ひ彼神大風と息吹放つ勢ひ有るを伊勢津彦と負し
ともとも阿のつぎに神風の伊勢あどの思ふとしかく風より出り名あり

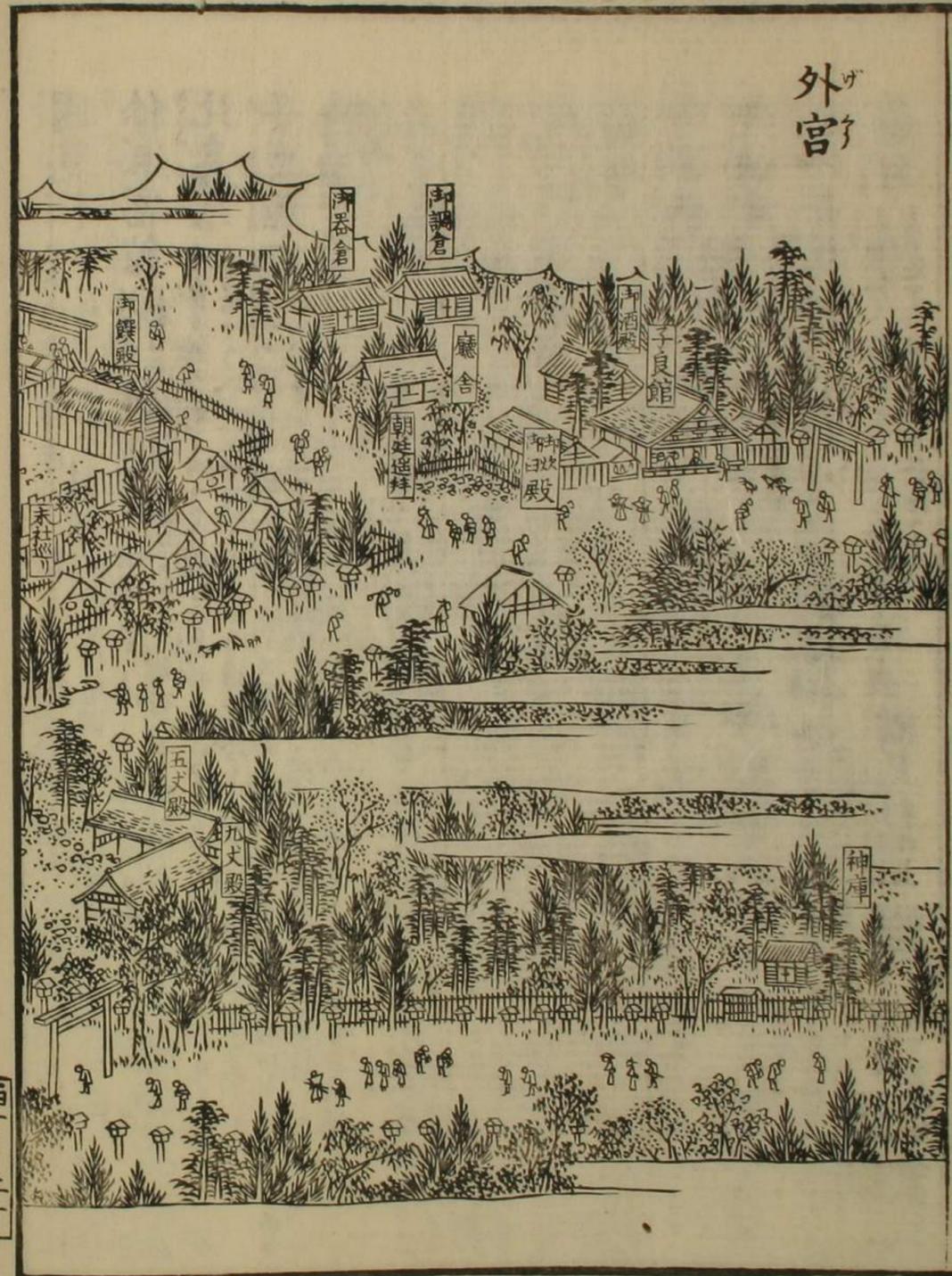
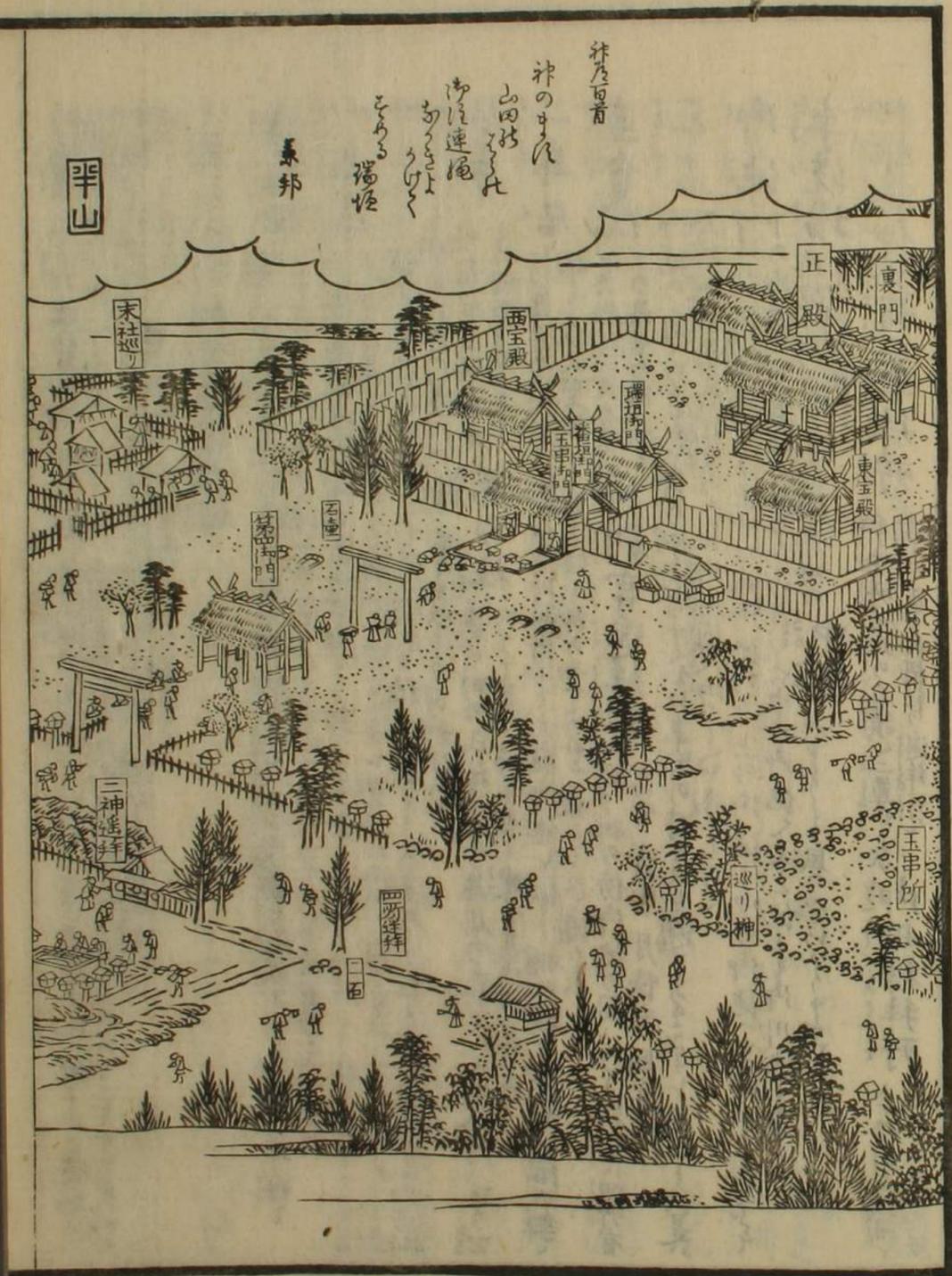
抑伊勢兩宮系詣の道條關西及び京師より先二条大橋より大津の駅へ出東海道
關の駅東の入りより直東海道右の方より鳥居神燈標石ありて是より分る當所
より山外宮まで行程凡十四里京師より凡二十四里許

關東より清人の東海道四日市駅より五十町を經て追分より直京師に依
東海道右の石の鳥居ありて系宮道是より神戸白子上野を經て津より
東武日本橋より伊勢山田まで行程凡百八里二十余町 追分より津八里半
津より山九里半

浪華より大和を越て田丸に出る所り又長谷より阿保山を越る所り或は伊賀乃
上野を越る所り是を伊賀越といふ先田丸越といふ浪華より南都へ出輪長
谷を經て秋原赤壇より田口をすびて勢州田丸不出く山田に至る 南都より行程
凡二十七里余

阿保越の道條は南都より長谷秋原を經て名張の所で阿保山とあつて六軒
茶屋に出る 是より京よりの街道と同下 又伊賀越の道中、南都轉蓋通より奈良
南都より行程凡二十八里余





与謝郡、今丹波の國、屬せり其昔倭姫命天照皇太神と裁り奉り与謝の宮に鎮りしゆ
出契りて天降りし御同殿に坐すや御神々今丹波國何守の内外宮より是より其御
御一所より容易に離れられぬの事あり 御殿造ハ南面して萱菅堀
を柱ハ大古穴住居あとの後初て家作りて覺へ竹木を其後繩がらみせり形あり

東寶殿 瑞垣の内正殿の前より御幣 西寶殿 納り奉る宝蔵
幣帛殿 外幣殿より 裏御門 正殿の北より御門より北の御門より記せし
御門神ト云一名天岩戸別神 御饌殿 正殿の良方内の玉垣の外より是ハ二所太神宮朝夕乃

四十末社 本宮の左より右より風の宮の右に終る俗に外宮四十末社内宮八十末社と云ふ
此事旧記にも事あり外宮儀式帳ハ官巡りの神すて二百余前と載り然れども
久し世あれば本宮の迂宮より百年より終り事あり天女の村山乱後其名其所と失ひし
りの旧記も兵火より神事も飢渴より二百余前の内遺まる名と拾ひて後世の人より四十末
社の名用しやあり諸末社他所より宮地よりハ今今宮巡りしよりハ遠方あり

高宮 大宮の南の山上より祭神一坐伊吹戸王神 下部坂 高宮の坂より
豊受太神の荒魂之外宮カ一の別宮
袖引石 下部坂の半途東の傍より俗に金石尾拂りし御殿より
殿の後より一の奇石を得り長サ二尺餘り幅八寸重サ常一倍せり石より打て金の音あり
始て黄金と稱し即ち伊勢太神宮告げせ 内宮遥拝所 高宮御炊殿の東石積り此所にて
奉納りし言傳ハ此石あるト云

土宮 高宮の坂より下りて左の方より祭神二座大土御祖神 宇賀御魂神 大田命あり
外宮第二の別宮に崇徳院大治二年度會川の堤守護の宮に宣下りて夫より
土の宮といふ土の社と云ふ **土宮御炊殿** 土宮良の方より 地護宮 土の宮の北にあり
山田の原地護の神あり **月瀆宮遥拝所** 土宮島居と出て左より 月瀆宮御炊殿 同所東より

山神社 月瀆宮遥拝所の南より祭神大山祇神 下御井社 山神の社の傍より
祭神 土の宮の東の方より祭神三座級長津彦命 級長戸辺命 御炊殿 風の宮の
外宮第四の別宮あり七月四日風日祈の神事あり

風宮 土の宮の東の方より祭神三座級長津彦命 級長戸辺命 御炊殿 風の宮の
外宮第四の別宮あり七月四日風日祈の神事あり

千枝杉 風の宮の東 **高倉山** 岩戸の山と上る事八丁外宮の南之又高佐山とも日就鳥山と云
古記に高佐山十二所の岩屋あり今三十三所有の事云

岩戸 高倉山の上方より傍茶屋より甚と美景の地あり此山と云 **高天原** 岩戸の後の上方に
下れ岐道より夫より客神高神社と云岡本町へ出る

高神社 建丹方命と **客神社** 建御方命と祭る山名あり岡本を下る道より二社東西
是 岡本 出坂の下 岐道より是より官出奇も出さ此終

宮寄文庫 豊宮寄り高神山の麓に慶安九年に宮建り是ハ外宮祠官の學校に
溝貫討論の寮あり此地に沼田あり方共間と平地に錦の小川鼓が岳あり

堂ハ東西八間南北二間より南面より左に巖瀨山右に高倉山前錦の小川鼓が岳あり
後岡本の里坊山を負て造り三發起人数七十家あり是ハ文庫衆の古今奉納り書
籍目録あり檐下掲ぐ數千部あり及より落成の林道春秋傳一部寄せられ
始り又他國素性の人の其器をえり講師を立文庫人数あり其も勇志有ハ

是 岡本 出坂の下 岐道より是より官出奇も出さ此終

堂ハ東西八間南北二間より南面より左に巖瀨山右に高倉山前錦の小川鼓が岳あり

後岡本の里坊山を負て造り三發起人数七十家あり是ハ文庫衆の古今奉納り書
籍目録あり檐下掲ぐ數千部あり及より落成の林道春秋傳一部寄せられ
始り又他國素性の人の其器をえり講師を立文庫人数あり其も勇志有ハ

傳師も聽衆もあがり林道春秋傳一部を収むるの時文庫一題する書記の文又同氏
春齊紀州水田善齋歡亭の記り又外の額に宅善齋道慶の筆内の額に文院
林氏の筆に共々豊言奇文庫の五字の床の間に大神宮の尊号後陽成院の御宸翰と
くる先幸室新助直清貝原篤信伊藤長嶺不重遠くも字あり人の書籍一覽の爲に
構築もとりて又 屋上櫻 此木寛文御遷宮の時外官の古殿の屋上生ササ苗を
又出口延佳の屋上生ササ本も言つて然るに百年
経て朽れし其若く生て今数株あり

度會大國玉比賣神社 高神山の東尾寄にあり祭神大國玉命依良比賣命二座
外官根社十六坐の此の山を大黒谷と云ふ大國の標りあり

伊加利社 大國玉比賣社の南にあり祭神伊加利比賣命
井谷地 書地の中、鑿石より名を有し云
梶ヶ森の西にあり井足又井無
井足の東にあり河内の森の

梶ヶ森 井足の東にあり河内の森の
轉号ありト云

御田 岩戸山の下のり梶ヶ森の御田ト云又拔穂の御田ト云
精進田ト云又御田ト云又豊受大神の御田ト云

山末社 木梨谷のり山末大山津姫命
此社の名と俗に根ありト云

宮崎の氏社 丸山西南二町あり氏神村にあり祭神度會門祖神
天村雲命ト云

鼓岳山蓮臺寺 蓮臺寺村にあり一条院の御宇永頼朝臣の建立して無本寺
の僧住持あり昔大地のり今六蔵と形ありの小堂に觀音安置あり

世義寺 宝金剛院 世義寺に別号あり山伏寺真言宗塔頭十九坊あり因基洋あり
本尊藥師如来例年九月廿五日より廿日まで如法經會修行あり

龍浪山 世義寺の北にあり麓橋のり龍浪の橋ト云向子園世義寺の門前
五六字あり龍浪の橋の東に八幡山弁才山代山虎尾山あり尾上經峯
連る山中に傘松ト云あり

岡本里 此町東に小田橋西に高倉山あり寛永十七年中御奉行所より岩坂切のり
居り内宮の御末直道成のり其のり外宮一の鳥居より北とて下馬の橋を
岩割に出で岡本の半途に出あり其切のり野と堀切町の腰のり此地は
櫛のり大御宮の御末直道成のり其のり外宮一の鳥居より北とて下馬の橋を

継橋 一名地藏橋のり外宮の鳥居より岡本の入りで中通り其中途に
地蔵の橋のり勅使の時叙爵家祖兼役此のり見ありて往兼地蔵の奇加近き
ありと云然れども山の腰に堀きより前勅使の橋と通行のり此のり

小田橋 岡本に妙見町の境にあり此川に神寶川のり遠く流きて川崎船江と
勢洲の國俗女子の月経あり

河辺里 小田橋より二町あり北にあり妙見町
まろれも川辺の里今今川崎と云

岡崎宮 妙見町の山の方より今今妙見堂より北に妙見菩薩と安久長三尺足
妙見田 小田橋の東の町あり

尾部社 妙見堂の東にあり祭神
尾部坂より南にあり

尾上 古名尾岡大かられ山に同ト万葉集ありび代の撰集に
多し寛文中尾上社とて再建あり後廢して今又社と云

高日山常明寺 法樂院ト号し同の山北にあり當地茅子の大寺に本尊深師如来天台宗額
院御宸翰ト本堂并山門ト云

金鼓山光明寺 常明寺の北にあり阿阿井庫裏の東竹林の内あり
天台宗あり寛文中月波和尚住職の時より禪宗とあり因基洋あり

結城入道道忠墓 是北畠中納言顯家卿一屬奥州のり延元四年又奥及下向
せんせよ安濃野津よあつて病よかり山田吹上町とて卒れ

山田妙見町の東の坂と間の
 山より此町にお杉を玉ちり
 する女粧ひを二味線と引
 ね流し金ととも推子と
 様々に出扮せて踊るを
 後に拍子とり比五尺の徒
 往來を立て報謝
 願ふ此に出るりのハ
 山田領の梓田村の
 者ももう入中の
 地蔵の末の坂も
 間の山とついで此野
 山田の間の山とついで
 此に出る宇治領の
 谷村の人の西野
 も當地の名物
 して他に及ばざ
 一奇くは山田の
 間の山向を尾部
 坂と宇治の間に
 山牛谷とついで



北畠頭家郷碑 ○後白河院碑 ○古鐘
後深草院御宇常盤井寒氏入道寄附
每旦酉の刺子の刺兩度是と撞く
参考太平記のせり光明寺
残篇とらる此書

東照山清雲院 妙見町との山間
尾部坂右の頂にあり世義寺三院院の如
法經此所におもむ故名つく云松樹一株あり
南の尾曼陀羅石の林字と云
鐵其傍小石のうらまへで皆梵字と鐵はとも首並て
年一難一説金剛胎藏の面曼陀羅あり何と世の物と見え

間山 妙見御東の坂より四名尾部坂又尾上坂とも書両宮の間の山おれ間の山とも又是より
旅人々錢を乞ふ子も種々出さるる毎八夜より思と掃子とて佩りたり比丘尼ハ住表一
を報謝と云是此所の名物とつて尾上坂山田領拜田村より出る牛谷宇治領谷村より出る

古市場 尾部坂の東の町是より宇治領と昔の市場とて鯉島之地と茶屋芝居ありて
大五輪。右向所あり此石方四人地より頂は二丈余傳説詳あり次宇治山田の戦ひに死せり
靈とす所も真正菩薩の建立とも和泉式部の石塔ともつて

貝吹山 宇治山田の合戦貝吹と吹一町と云
中地藏 古市の次の町と此間と長峯と云
内宮より外宮まで五十町の其中間

葛籠石 中地藏町東の方二町斗あり此ととも長峯ととも高八尺余横二丈斗石重り
古市より朝熊の道より昔此地辺に大樹の楠あり延宝年中は倒る実ハ大楠の池

王孫池 ありと云又下中村皇女の森に遊ばせりて王孫の池と云とも聞ゆ
月瀆伊弉諾西宮地 布施戸坂と下り本誓寺の東に森にあり仁壽二年八月廿二日
洪水よりつて二宮とも流る故に今中村の地と云

菩提山 下中村の道言宗の本尊文六阿弥陀佛行基作而殿士不動明王毘沙門天王
聖武帝勅願よりして天正十六年の草創同基行基菩薩と聞ゆ

皇女森 五十鈴川の下中村より又楠部村西の方の森と云今皇女考楠皇
女崩宮をせめい今廬城部武彦より入り密通りて孕みあり
阿閉の臣因見
つ者護美と云皇女帝の逆轉と云それ御鏡と抱りて此森に縊れ崇りて帝その御屍成
りて腋中して死して見ゆと云此の有りたる此におて觀應のうらまへ解て御臣
御代せり是全く神鏡の御徳と云

伊弉諾伊弉冉尊宮社 月瀆の宮地の西より内宮の別宮の内宇治の所は遠拜所
仁壽二年以後此所より
真玉森 月瀆の宮の南より
椿淵 木林の辺
尾寄の里 楠部村の西に古市より十三丁
長朝経山一登五十五町

大土御祖社 楠部村より祭神大國玉命水佐良姫命三座
國津御祖社 大土御祖の社の
地内長有双神
宇治比賣命田村比賣命二坐之右両社とも内宮撰社二十四座の内木林の聖一御常供田有每幸
五月大御田の神事神田植り國津御祖と國の祖之内宮の地神あり宇治姫と云田村田の神

牛谷 中の地藏の末の坂より牛谷坂と下り浦田町へ入る前門あり此門と惣門と云
浦田 牛谷の坂より浦田の町と云
中々切 浦田の次の町と云宇治の々々此御出右井田岡田の二里
伊勢上人 田町より慶光院と号し禪宗の尼寺と云世に上人の位に進て伊勢上人と稱して
寺号と稱せし官家の息女也 住職より庫裏客殿廣大なり寺の南并財天の社有

岡田 中の切の左の方橋より新橋と云
那自賣社 岡田の左の方より宇治領須賀地女命並
西行谷神照寺 宇治の町東の山際より建久の頃西行法師より高居りて所あり自作神造と云
大納言光廣卿の御寄附あり今此地に危住持あり谷の戸の松と云名木のり今ハ枯て也

西行 長の戸のりぞねはまらあり我の友にあらんと云

西行

餓鬼谷真淨院 神照寺南隣にあり 法樂舎 岡田山神の右の方有 不動堂 同所有明正院
本尊二十佛とて直言宗 本尊二十佛とて直言宗 本尊二十佛とて直言宗

津長社 畑村の西山の傍有祭神一坐 大水社 津長社の南にあり祭神一坐大山祇御祖命
細長比賣命と云 則山神之内宮撰社廿四坐の内あり

鼓ヶ岳 大橋の西にあり宮川五十鈴川にあり 神鼓山長明寺 鼓ヶ岳林寄の間に有本尊正
觀音鴨長明とて此所住人
ツの堂にありて俗に言ふ岳と云言ふ

林寄文庫 鼓ヶ岳の東の尾寄大橋西山にあり 宇治郷にあり 宇治郷にあり 宇治郷にあり
扶合して造立せし初林寄の南の方九山と云言ふ

橋姫社 宇治郷にあり 宇治郷にあり 宇治郷にあり 宇治郷にあり
古紀白橋姫の社に河皇神あり式外

宇治橋 宇治郷にあり 宇治郷にあり 宇治郷にあり 宇治郷にあり
前後鳥居あり柱の太サ末口二尺高サ二丈二尺土六尺冠木の長サ二丈二尺西鳥居
常磐神主白く此橋は是より十餘町下流の中村曾波河原有板橋の類いあり

五十鈴川 一流に宇治山の谷又志州にあり 鏡石社 鏡石社 鏡石社 鏡石社
。鏡石宇治にあり十七下上と云言ふ 西向に清浄明白誠誓鏡の鏡の故山鏡に鏡石社あり宇治郷にあり

館町 橋の東の町あり 祇宜宿館 一の鳥居の左の方あり十貫の
館町 橋の東の町あり 祇宜宿館 一の鳥居の左の方あり十貫の
館町 橋の東の町あり 祇宜宿館 一の鳥居の左の方あり十貫の

自是宮中 一の鳥居の左の方あり十貫の 一の鳥居の左の方あり十貫の
一の鳥居の左の方あり十貫の 一の鳥居の左の方あり十貫の

手水場 一の鳥居と入て右の方五十鈴川の流れ
一の鳥居と入て右の方五十鈴川の流れ 一の鳥居と入て右の方五十鈴川の流れ

一之鳥居 一の鳥居と入て右の方五十鈴川の流れ
一の鳥居と入て右の方五十鈴川の流れ 一の鳥居と入て右の方五十鈴川の流れ

二之鳥居 一の鳥居と入て右の方五十鈴川の流れ
一の鳥居と入て右の方五十鈴川の流れ 一の鳥居と入て右の方五十鈴川の流れ

三之鳥居 一の鳥居と入て右の方五十鈴川の流れ
一の鳥居と入て右の方五十鈴川の流れ 一の鳥居と入て右の方五十鈴川の流れ

四之鳥居 一の鳥居と入て右の方五十鈴川の流れ
一の鳥居と入て右の方五十鈴川の流れ 一の鳥居と入て右の方五十鈴川の流れ

五之鳥居 一の鳥居と入て右の方五十鈴川の流れ
一の鳥居と入て右の方五十鈴川の流れ 一の鳥居と入て右の方五十鈴川の流れ

六之鳥居 一の鳥居と入て右の方五十鈴川の流れ
一の鳥居と入て右の方五十鈴川の流れ 一の鳥居と入て右の方五十鈴川の流れ

七之鳥居 一の鳥居と入て右の方五十鈴川の流れ
一の鳥居と入て右の方五十鈴川の流れ 一の鳥居と入て右の方五十鈴川の流れ

八之鳥居 一の鳥居と入て右の方五十鈴川の流れ
一の鳥居と入て右の方五十鈴川の流れ 一の鳥居と入て右の方五十鈴川の流れ

九之鳥居 一の鳥居と入て右の方五十鈴川の流れ
一の鳥居と入て右の方五十鈴川の流れ 一の鳥居と入て右の方五十鈴川の流れ

十之鳥居 一の鳥居と入て右の方五十鈴川の流れ
一の鳥居と入て右の方五十鈴川の流れ 一の鳥居と入て右の方五十鈴川の流れ

十一之鳥居 一の鳥居と入て右の方五十鈴川の流れ
一の鳥居と入て右の方五十鈴川の流れ 一の鳥居と入て右の方五十鈴川の流れ

十二之鳥居 一の鳥居と入て右の方五十鈴川の流れ
一の鳥居と入て右の方五十鈴川の流れ 一の鳥居と入て右の方五十鈴川の流れ

十三之鳥居 一の鳥居と入て右の方五十鈴川の流れ
一の鳥居と入て右の方五十鈴川の流れ 一の鳥居と入て右の方五十鈴川の流れ

十四之鳥居 一の鳥居と入て右の方五十鈴川の流れ
一の鳥居と入て右の方五十鈴川の流れ 一の鳥居と入て右の方五十鈴川の流れ

十五之鳥居 一の鳥居と入て右の方五十鈴川の流れ
一の鳥居と入て右の方五十鈴川の流れ 一の鳥居と入て右の方五十鈴川の流れ

十六之鳥居 一の鳥居と入て右の方五十鈴川の流れ
一の鳥居と入て右の方五十鈴川の流れ 一の鳥居と入て右の方五十鈴川の流れ

十七之鳥居 一の鳥居と入て右の方五十鈴川の流れ
一の鳥居と入て右の方五十鈴川の流れ 一の鳥居と入て右の方五十鈴川の流れ

十八之鳥居 一の鳥居と入て右の方五十鈴川の流れ
一の鳥居と入て右の方五十鈴川の流れ 一の鳥居と入て右の方五十鈴川の流れ

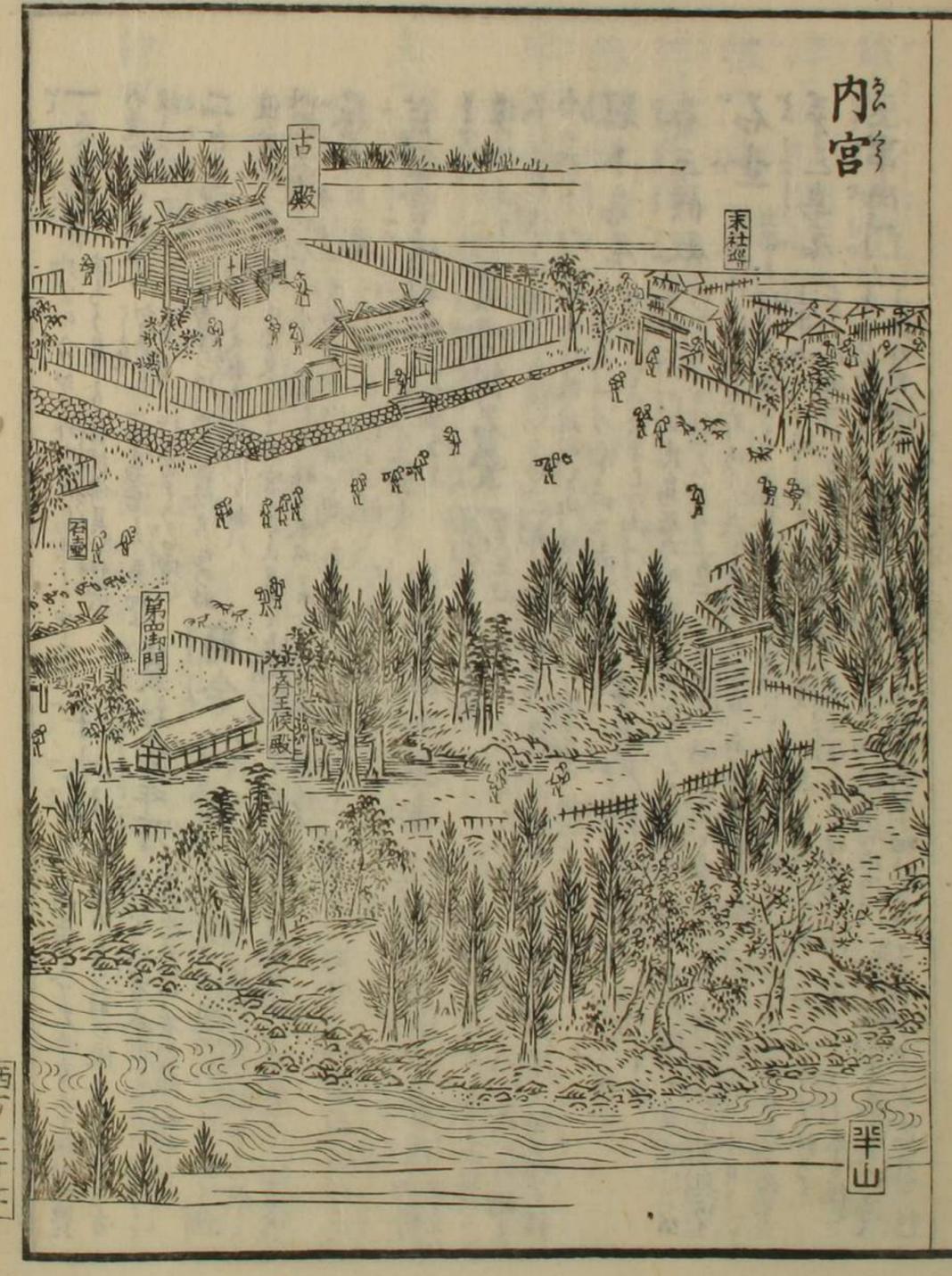
十九之鳥居 一の鳥居と入て右の方五十鈴川の流れ
一の鳥居と入て右の方五十鈴川の流れ 一の鳥居と入て右の方五十鈴川の流れ

二十之鳥居 一の鳥居と入て右の方五十鈴川の流れ
一の鳥居と入て右の方五十鈴川の流れ 一の鳥居と入て右の方五十鈴川の流れ

二十一之鳥居 一の鳥居と入て右の方五十鈴川の流れ
一の鳥居と入て右の方五十鈴川の流れ 一の鳥居と入て右の方五十鈴川の流れ

二十二之鳥居 一の鳥居と入て右の方五十鈴川の流れ
一の鳥居と入て右の方五十鈴川の流れ 一の鳥居と入て右の方五十鈴川の流れ

二十三之鳥居 一の鳥居と入て右の方五十鈴川の流れ
一の鳥居と入て右の方五十鈴川の流れ 一の鳥居と入て右の方五十鈴川の流れ



内宮

内宮正殿

天照皇大神 一座

一鏡

巽の宮又五十鈴宮 磯の宮朝日宮とも申奉る

相殿

東 手力雄命

西 萬幡豊秋津姫命

日本紀に携幡千々姫

手力雄命八天の岩戸を引ひし力あり強力の神

携幡千々姫八神代卷下云天照大神の御子天忍穗耳尊の御妻トて高皇產靈尊の女

御鎮座の御事ハ日本紀一書云日の神岩戸を閉ひて出ず時鏡を以て其處

投りて岩戸を觸て小瑕付り今尚存此即伊勢一崇秘々大神也云尚神

武天皇以來代々此御鏡同殿にすせめひり人皇十代崇神天皇の御宇神威

と恐きゆひ天の香山の荒金を以て鏡釵を鑄りて温明殿にあり申内侍所

寶釵と名づけ内裏にあり神代より鏡と釵崇神天皇六年己丑秋九月御

女豊鋤入姫と附奉大和國笠縫の邑に付て磯城の神籬を立てり奉る其

後大神の教より豊鋤入姫大神と戴奉國にあり宮所を求めり其

老のいより人皇十一代垂仁天皇の御女大倭姫命ありて義和乃御

緒の宮より諸國順覽り終り同御宇二十六年丁巳十月甲子宇治郷五十

鈴川の辺に接奉相殿に天兒屋根命太玉命より其後外宮御鎮

座の時此二神と外宮の西相殿に定り

神風や吹くはさるる乃と云う門の神のどろある世に

鎌倉 右大臣

神路山

宮域のめう

一名大山 天照山 宇治山 鷲日山

百枝松

内宮の御神木と

神路山と云う

八十末社

本社御前より右廻る是も外宮の條に

西鳥居

是も荒垣西御門云

天津神社 國津神社 鳥居の左右あり

本宮古殿

廿七年に一度遷宮

興玉拜所 石壇 本宮西北隅有 御指御倉 鳥玉の

一元社

御指倉の傍

裏御門 北鳥居 荒垣の御門 北玉垣御門 北瑞垣御門

外宮遥拜所

荒祭の宮隣

月讀宮 伊弉諾宮 瀧原宮 高神宮 高神宮 高神宮 高神宮

伊雜宮遥拜所

同東南

高宮土宮 新月讀風宮 高神宮 高神宮 高神宮

攝社末社

小朝熊社

前社末の遥拜は此所の左右あり

御池

周四百八十間荒祭

河島神社 瀧原宮 高神宮 高神宮 高神宮

遥拜所の後有

河島神社

瀧原宮 高神宮 高神宮 高神宮

瀧原宮

高神宮

高神宮 高神宮 高神宮

高神宮

高神宮

高神宮 高神宮 高神宮

二見浦



玉うげゆきみの
浦乃ゆき社の
まあと出依
寫士もいつり
般樹

平山

西ノ二十九

由貴殿

一殿の後

酒殿

朝廷遙拜所

接の宮の

子良館

二の鳥居の内

五十鈴川橋

張井七間俗風の宮の橋云左の方

僧尼遙拜所

風宮

五十鈴川の橋と云うて右の方

末社十一社

風の宮の東南、りり上十九社

八百會遙拜所

子良館の西の方左の石

瀧祭宮

子良館南の道の東左の方の石壇

落合河原

龍祭の前の河原と云

龍宮並宮

龍祭の宮

河原抜所

龍祭の間の有

河合社

龍の宮の石壇の南

御殿

御殿の後に石壇あり

高倉殿

御殿の後に石壇あり

此にて宮中終

此にて宮中終

○右両宮の系緒ありて後伊雜宮朝龍一登り又下りて二見より川岸の辺りまでの噴路
 名所旧跡おびびり然るも觀音靈場の道路長くして事あげれば余はるれと思ふ伊勢系宮
 名所園會まつまひもあれはるれと續く
 ○當地より紀州熊野山へ廻り八鬼山越へ経く新宮へ出るも本道
 山田の町筋遠橋と越へて行京街道小俣宮川に至る橋より直へ行川を
 上の渡り出る是則田丸越の街道あり川の堤まで山田の町つれ

狭田國生神社 佐田村、つり祭、所速川比古命、速川比古神社、田丸の東、
延喜式、神名帳、出度會郡五十八座の内、

湯田神社 湯田村、つり祭、雷電神、並、素盞鳴命、延喜式、
延喜式、神名帳、出、太神宮、撰、社二十四座の内、

田丸城下 紀州、つり祭、番城の城下、つり祭、高家、旅、屋、
紀州、つり祭、番城の城下、つり祭、高家、旅、屋、
紀州、つり祭、番城の城下、つり祭、高家、旅、屋、

田上大水神社 田上村、つり祭、大神、御、倉、川、神、
田上村、つり祭、大神、御、倉、川、神、
田上村、つり祭、大神、御、倉、川、神、

棒原神社 田邊村、つり祭、天須麻呂女命、
田邊村、つり祭、天須麻呂女命、
田邊村、つり祭、天須麻呂女命、

坂手國生神社 延喜式、神名帳、出、太神宮、
延喜式、神名帳、出、太神宮、
延喜式、神名帳、出、太神宮、

神照山廣泰寺 官古村、つり祭、禪宗、曹洞、派、僧、
官古村、つり祭、禪宗、曹洞、派、僧、
官古村、つり祭、禪宗、曹洞、派、僧、

富向山田宮寺 田宮寺村、つり祭、古義、真言宗、
田宮寺村、つり祭、古義、真言宗、
田宮寺村、つり祭、古義、真言宗、

蚊野神社 蚊野村、つり祭、大神、御、影、川、神、
蚊野村、つり祭、大神、御、影、川、神、
蚊野村、つり祭、大神、御、影、川、神、

延喜式、神名帳、出、太神宮、所撰、二十四座の内、
延喜式、神名帳、出、太神宮、所撰、二十四座の内、
延喜式、神名帳、出、太神宮、所撰、二十四座の内、

